KIORITZ

取 扱 説 明 書

iスタート
共立牽引スプレーヤ
PHS10

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立牽引スプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・このスプレーヤは、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付スプレーヤです。
・このスプレーヤは家庭用・農業用などの薬液噴霧に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

農薬使用上の留意点※

・農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
・農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

※９ページの**農薬使用上の注意**も合わせてよく読んでください。

本機の特徴 ； iスタート

・iスタートは、エンジンの始動時、スタータを引いたときの回転力がバネを介してクランク軸に伝わるため、ケッチンを感じることなくスムーズに始動することができます。
エンジンの始動は、スタータを素早く引かなければなりませんが、iスタートならそれが容易にできます。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　ハンドルの組立 6
　ホースの組立 7
　タイヤ幅の調整 7
正しい作業のために 8
　作業者の体調 8
　保護具 8
　薬液 9
操作方法 １０
　燃料の取扱い １０
　エンジンの始動と停止 １１
　噴霧作業 １４
点検・整備 １６
　整備の目安 １６
　点検要領 １６
故障診断と対策 １９
保管 ２０
　長期保管（３０日間以上） ２０
仕様 ２１

⚠ 注　意

スタータグリップを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので、ご注意ください。

重要

・*i*スタートは、滑らかにリコイルが引けるスタータです。
・スタータグリップが軽く引けない場合や、スタータグリップを引いてもエンジンが始動しない場合は、スパークプラグを外してください。更にリコイルを引いても重いときは、エンジン内部の故障ですので、そのままお買い求めの販売店へご相談ください。

i*スタート*リコイルスタータ分解禁止
スタータグリップが軽く引けない場合は、スタータ内のバネが巻き込まれた状態ですので、スタータケースを外さないでください。

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合､死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合､死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合､ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は､この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

●この取扱説明書で解説されている機械には､下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。

●ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し､「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠ 警　告

●作業中は､かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

●農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

⚠ 注　意

運転中及び停止直後は、マフラーや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないでください。

⚠ 警　告

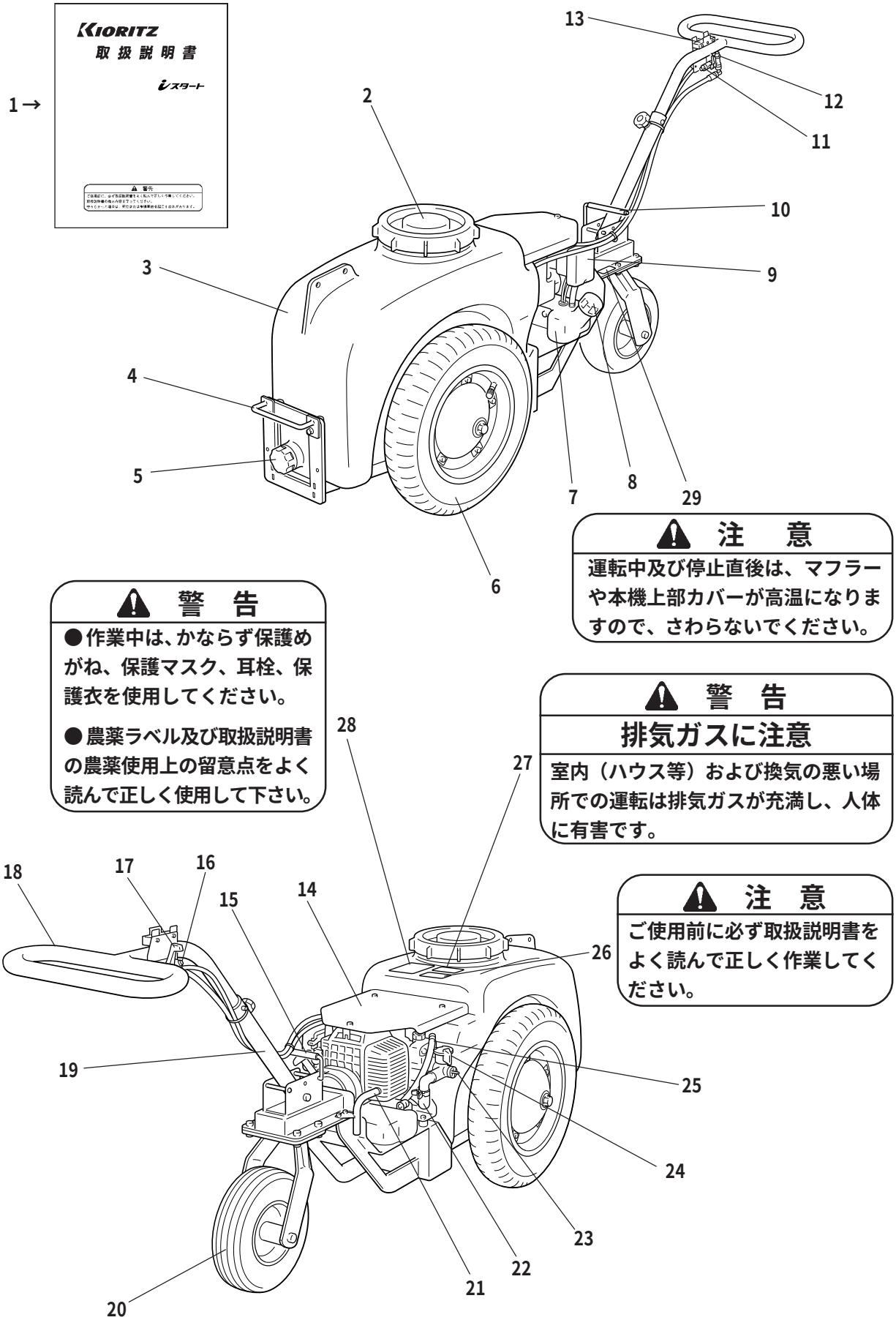
排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

各 部 の 名 称



⚠ 注　意

運転中及び停止直後は、マフラーや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないでください。

⚠ 警　告

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

●農薬ラベル及び取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用して下さい。

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

各部の名称とその機能

１．取扱説明書 —— 機械をお求めになったとき必ず付属しています。
機械を使用する前に必ず読んでください。
また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

２．薬液タンクキャップ —— 薬液タンクを密封するふたです。

３．薬液タンク —— 薬液を入れる容器です。

４．フロントハンドル（前ハンドル） —— 本機を移動・輸送するときに使用する持上げ用のハンドルです。

５．薬液ドレンキャップ —— 薬液タンク内の薬液を排出するときに外します。

６．タイヤ —— 走行に使用します。

７．燃料タンク —— 燃料を入れる容器です。

８．燃料タンクキャップ —— 燃料タンクを密封するふたです。

９．エアクリーナ —— エンジンに供給される空気をきれいにします。

１０．リヤハンドル（後ハンドル） —— 本機を移動・輸送するときに使用する持上げ用のハンドルです。

１１．薬液コック —— 補助散布用の吐出口です。（通常は閉じておきます）

１２．薬液吐出口 —— ノズル、ホースの接続口です。

１３．ノズルホルダ —— ノズルパイプを置くためのものです。

１４．カバー —— エンジン、ポンプを保護します。

１５．スタータグリップ —— エンジンを始動するときに使用します。iスタート

１６．ストップスイッチ —— エンジンを停止するときに押すスイッチです。

１７．スロットルレバー —— エンジン回転数を指で調節するためのものです。

１８．ハンドル —— 移動や、方向変換するときに使用します。

１９．ハンドル支柱 —— ハンドルと本体を結びます。

２０．キャスタータイヤ —— 走行方向を変更するときに使用します。

２１．排気ガイド —— エンジンの排気ガスを下方へ排出します。

２２．薬液吸い込みホース —— 薬液タンクの薬液をポンプへ導きます。

２３．ポンプドレンキャップ —— 薬液ポンプ内の薬液を排出するときに外します。

２４．圧力調整レバー —— 散布時の圧力を調整します。

２５．余水ホース —— 余水を薬液タンクに戻します。

２６．注意ラベル —— ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

２７．警告ラベル —— エンジンの排気ガスは有害です。
屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。

２８．警告ラベル —— 作業中は、必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
農薬ラベルおよび取扱説明書の農薬使用上の留意点をよく読んで正しく使用してください。

２９．注意ラベル —— 運転中および停止直後は、マフラや本機上部カバーが高温になりますので、さわらないよう注意してください。

組　　立

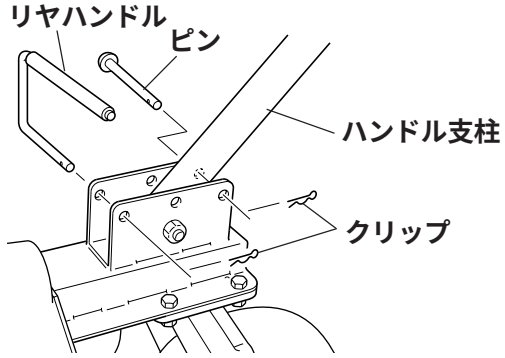
図１


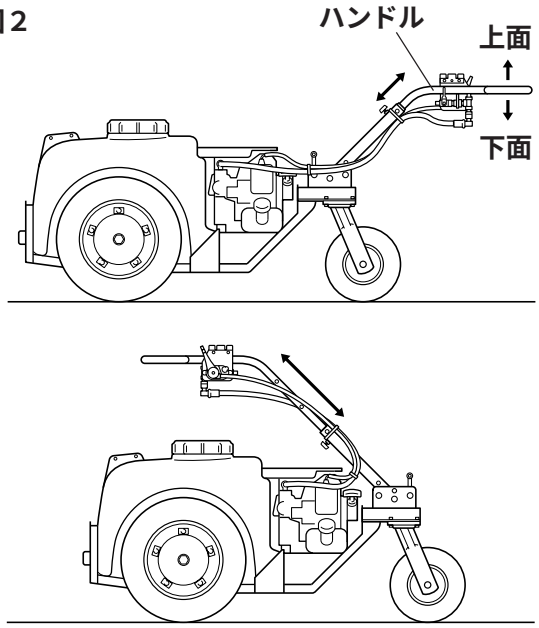
図２


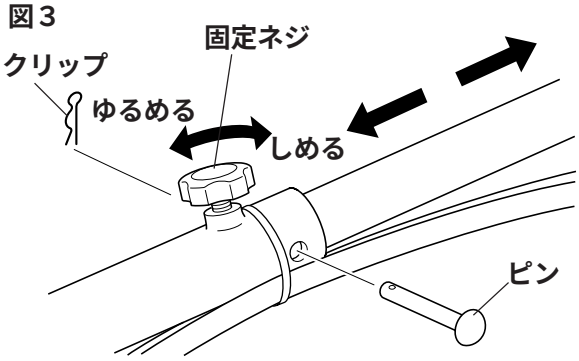
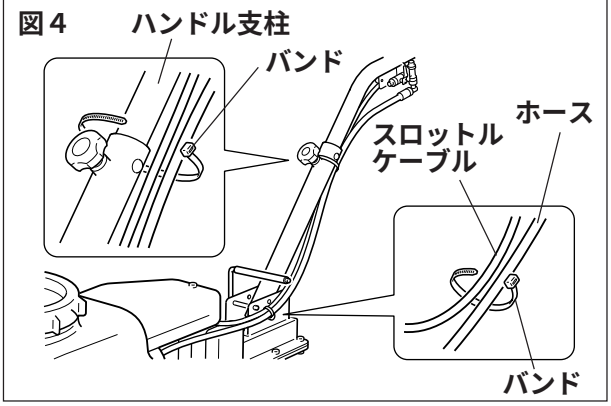
図３


図４


・ 機械を改造してはいけません。
・ 整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

ハンドルの組立

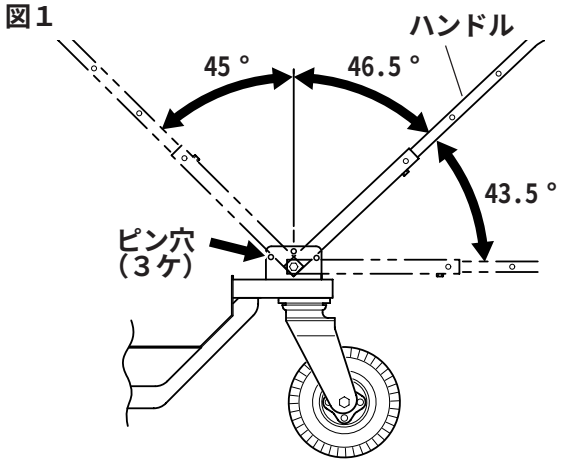
ハンドルは作業に合わせて長さ、高さ、方向が調整できます。
また、リヤハンドルの使い分けにより、作業中のハンドル位置を薬液タンク側、キャスタ側方向に使用できます。

・ リヤハンドルとピンをフレームに差し込み、それぞれクリップで抜け止めをします。（図１参照）

・ ハンドルの上面・下面方向を決め（図２参照）、ハンドルをハンドル支柱に差込み、長さ調整穴（３段のいずれか）に合わせます。ピンを差込み、クリップで抜け止めを行ない、固定ネジで固定します（図３参照）

・ 付属のバンド（2個）で、ホースとスロットルケーブルを束ねます。（バンドは、挿入部のツメを押すことによりゆるめることができます。）

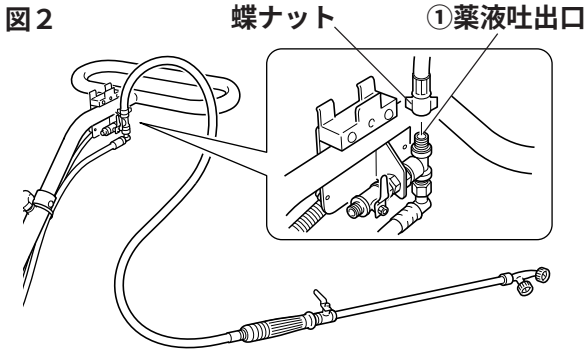
図１



ハンドルの調整範囲

- ハンドルの角度は作業に合わせて調整できます。
- 本機運搬時、ハンドル位置を最下位に倒すことができます。このとき、外したピンはフレームの中央穴に差し込んでおきます。

図２



ホースの組立

- ①薬液吐出口に、②ホース、③ノズルグリップ、④ノズルコック、⑤ノズルパイプ、⑥ノズルの順に組付けてください。（図２，３参照）
- 組付けが不確実ですと、薬液が漏れ薬害の原因になりますので、充分注意してください。

図３

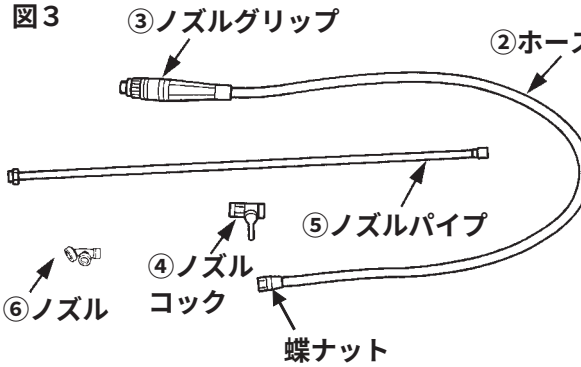
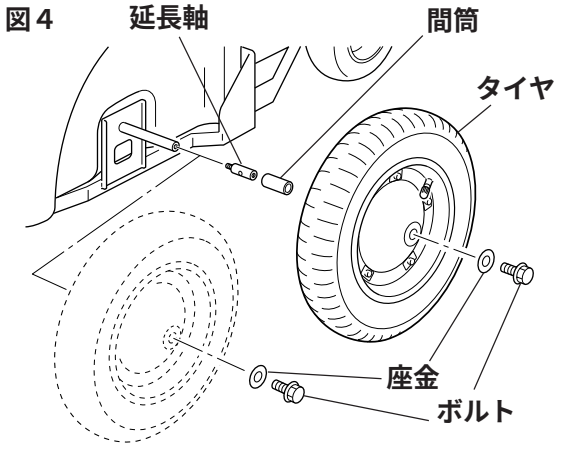


図４



タイヤ幅の調整

タイヤ幅は、工場出荷時約３００mmに設定されています。

凹凸が大きく傾斜地の走行には、本機安定のため付属の延長軸を組付けることにより、タイヤ幅を広げることが可能です。

- タイヤを固定しているボルト、座金をゆるめて外します。
- 延長軸をネジ込み、間筒、タイヤの順に組付けます。（延長軸の側面穴に棒などを差込み、確実に締付けます。）
- 座金、ボルトでタイヤを固定します。

正しい作業のために

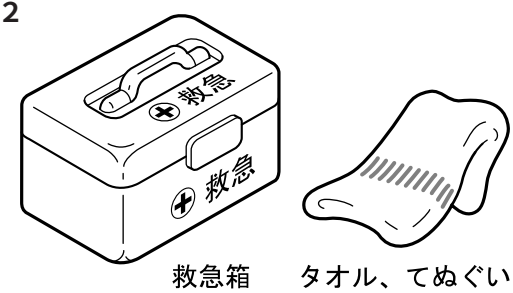
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する薬液に直接触れることを避けてください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

図１



図２

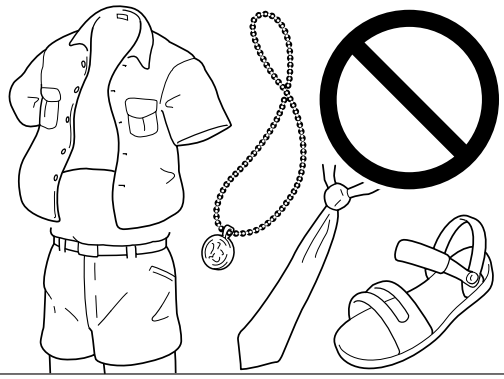


救急箱　　タオル、てぬぐい

図３



図４



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機や薬液の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬液の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬液に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならない、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりをよくしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

図１

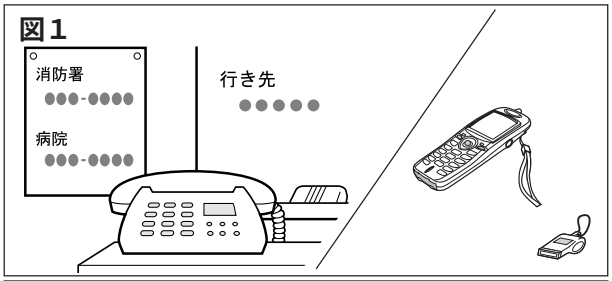
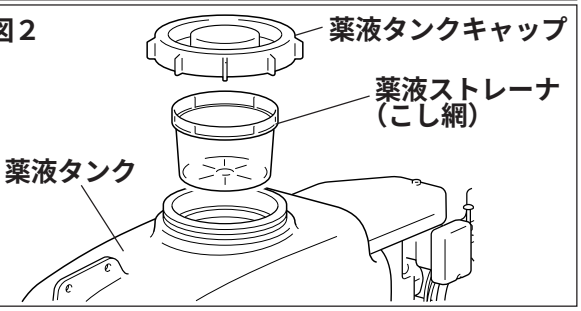


図２



⚠ 警　告

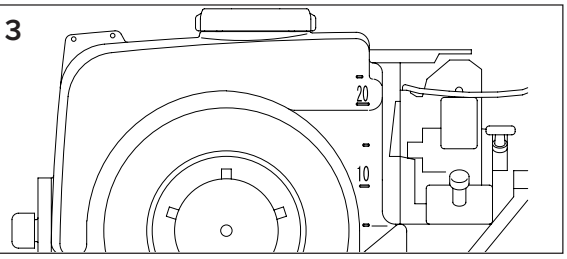
薬液ストレーナは常に薬液タンク口に正しく付けておいてください。かくはん水の勢いが強いので、運転作業中、薬液残量が少なくなると、薬液タンクキャップのブリーザ穴から薬液が漏れることがあります。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  - ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  - ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  - ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

図３



手の保護

ゴム手袋またはビニール手袋を着用してください。直接薬液に触れないでください。

脚全体の保護

滑りにくい作業用長靴を履いてください。
つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 薬液噴霧のときは、農業用マスク（付属の防除マスクなど）を着用し農薬を吸い込まないようにしてください。
  付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

薬液

⚠ 警　告

薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。

- 農薬ラベルをよく読んでください。
- 薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、薬液がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
- 本機や薬液に関する知識を持たない人や、子供などには取扱わせないでください。
- 薬液タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬液が漏れないようにしてください。
- 薬液は必ず薬液ストレーナを使用して補給してください。（タンク内のゴミは、ノズルの詰まりの原因となります。）
- 薬液タンク容量は、２８．５Ｌです。タンクの横にあるマークは、各々５、１０、１５、２０、２５Ｌを示します。（図３参照）

重　要

本機の薬液タンク内で薬液を、直接調合しないでください。

操　作　方　法

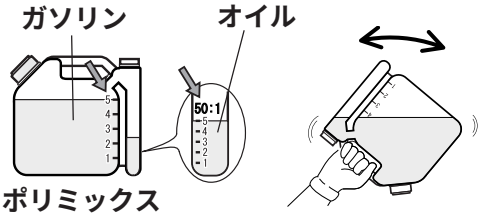
⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械を身体から離し、身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１



ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
２	４０	８０
４	８０	１６０
５	１００	２００

図２

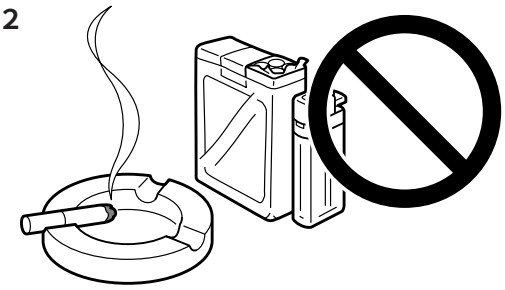
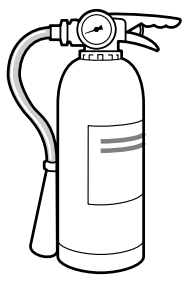


図３



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重　要

- 混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。

- 燃料はレギュラーガソリン（**アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます**）と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。

- ２サイクルエンジンオイルはＪＡＳＯ性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯの旧規格で定められていました。共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。

- ２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。
  ＦＣ・ＦＤ　；［５０：１］
  ＦＡ・ＦＢ　；［２５：１］

- 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
  草木などに類焼しないよう注意してください。
  シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１

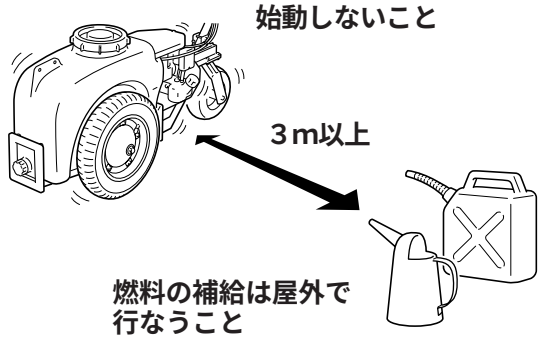
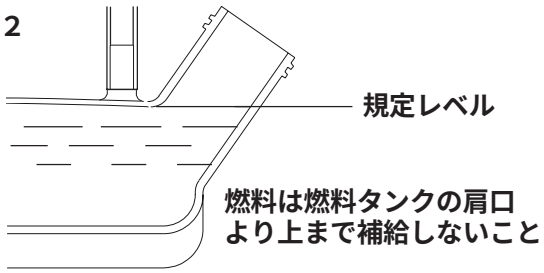


図２



⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図３
屋内での運転禁止

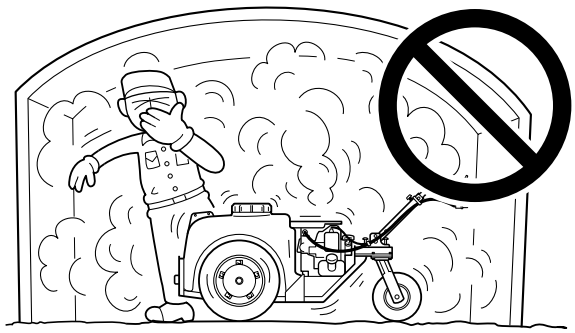


図４



- **燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。**
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- **燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。**
  屋内では燃料を補給しないでください。
- **エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。**
- **燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください。（図２参照）規定レベルを超えると使用時にキャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。**
- **燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。**
- **補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。**
- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**
- **燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。**

エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- **エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。**
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- **燃料が漏れていないか確認してください。**
  燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- **機械を始動する前に、薬液タンクキャップをしっかり締めてください。**
- **機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。**
- **機械は地面にしっかりと押え、始動してください。**
- **エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。**

重　要

- **エンジンを始動する前に、必ず薬液タンクに薬液、あるいは清水を入れます。**
- **本機の防振構造はエンジン、薬液ポンプを防振ゴムで浮かせている構造ですので、エンジン始動時のリコイル操作は必要以上の力を加えず操作してください。**
- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引出さないでください。**
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**

図1

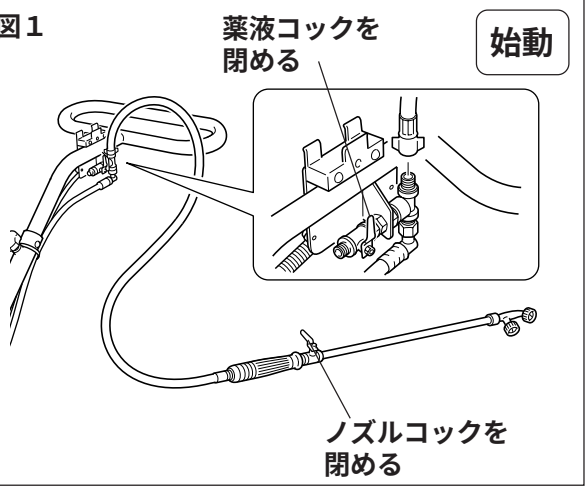


図2



図3

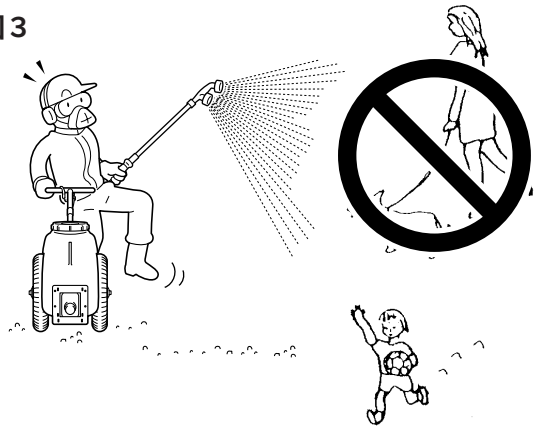
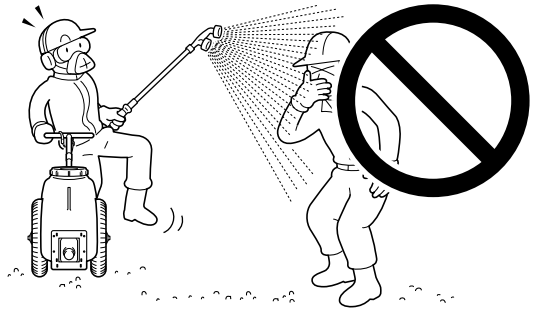


図4

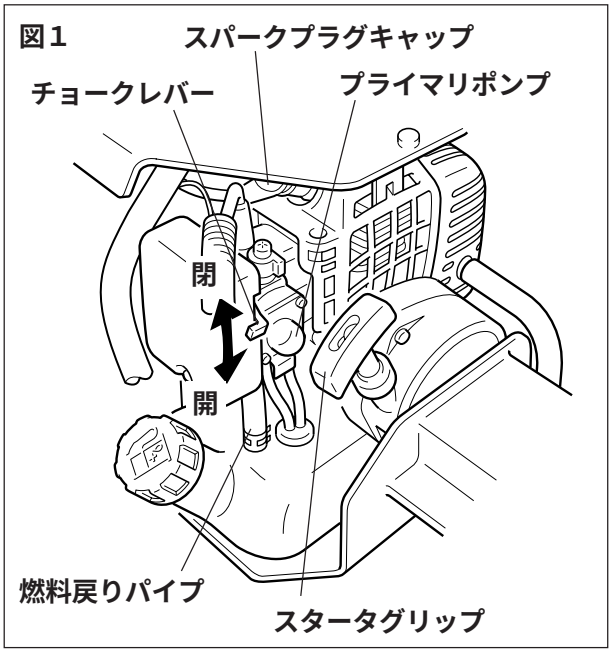


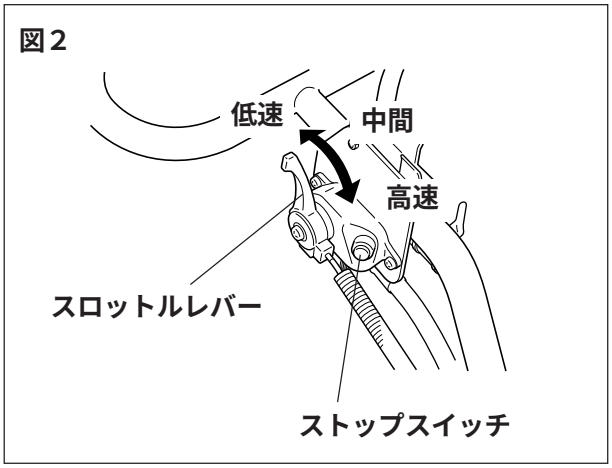
重　要

- **アイドリング（低速運転）に戻さずにチョークストップなどでエンジンを停止すると、故障する恐れがあります。**
- **緊急時以外は必ずアイドリング（低速運転）状態にして停止してください。**
- **薬液がノズルから出なくなったらすぐにエンジンを停止してください。薬液タンクがカラの状態でエンジンを始動しないでください。**

- **エンジンを始動するときは、たいらな地面で薬液タンクに薬液、あるいは清水が入っていることを確認し、薬液コック、ノズルコックを閉じてください。燃料パイプが折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。**
- **この機械を使用する場所をチェックしてください。障害物は作業する場所から取除いてください。**
- **足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。**
- **機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。**
- **ノズルを人や動物へ向けないでください。**
- **ノズルグリップは、いつもしっかり握ってください。**
- **この機械を扱う際、高温による火傷を防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。**
- **全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。**
- **この機械は、真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されており、使用時および運搬時に横にしたり、極端に傾けたりして、燃料や薬液が漏れないようにしてください。**
- **夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、この機械を使うことを避けてください。**
- **本機はクラッチ伝達方式です。動力を完全伝達できるエンジン回転数で使用してください。**
- **マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、エアクリーナの空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。**

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。





エンジンが冷えている場合の始動

- エンジンを始動させる前に、薬液コック、ノズルコックを閉じてください。
- 薬液ポンプの破損防止のため、薬液タンクがカラの状態では、エンジンを始動したり、運転をしないでください。
- チョークレバーを「閉」の位置にしてください。
- スロットルレバーを中間位置にしてください。（図２参照）
- 燃料戻りパイプに燃料が見えるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。
- 吸い込み確認後、機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
- 爆発音がしたらチョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを除々に「開」に戻してください。
- エンジンが始動したら、作業前に２～３分間低速で運転して、暖機してください。

エンジンが暖まっている場合の始動

- スロットルレバーを低速位置にしてください。
- チョークレバーが「開」の位置になっていることを確認してください。「閉」の位置になっていたら「開」の位置にします。
- スタータグリップを２～３回引き、エンジンを始動させてください。
- 約４回スタータグリップを引いても、エンジンが始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してください。

エンジン停止

- **スロットルレバーを低速位置にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。**
- ストップスイッチを押してください。（図２参照）
- 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
- エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。

※ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

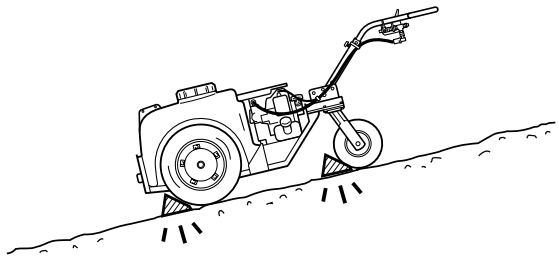
長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図１参照）

噴霧作業

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 薬液噴霧のときは、農業用マスク（付属の防除マスクなど）を着用し薬液を吸い込まないようにしてください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 傾斜地や凹凸面での作業には、転倒、滑落に充分注意してください。

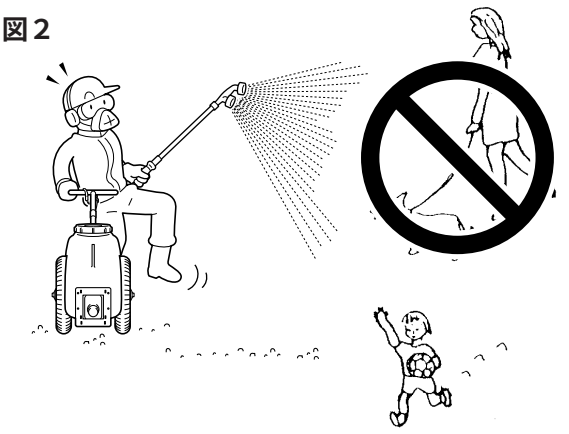
図１



傾斜地での作業について

・ 傾斜地での作業において、本機から離れる（ハンドルから手を離す）ときは、滑落防止処置として、タイヤに石や木片を利用し車止めを行なってください。

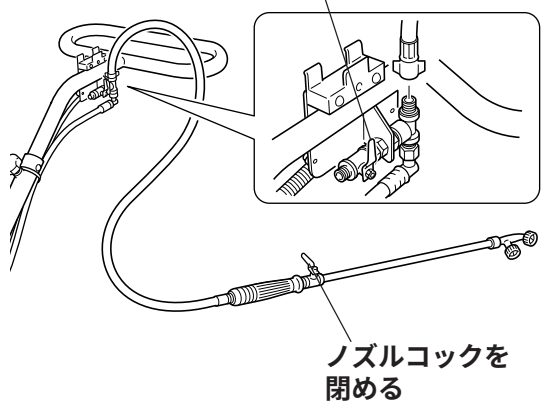
図２



傷害事故を防止するために

・ 薬液を被ることのないよう、風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。
・ 作業を始める前に、風向きをみてください。周辺にドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬液による傷害を起こすものがあるときには、薬液を噴霧しないでください。
・ 噴霧は、風下に向かって行なってください。
薬液の分散による損失を少なくして薬液の噴霧効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
・ 薬液噴霧作業中は喫煙、飲食をしないでください。
農薬を吸引したり、食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。
・ 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

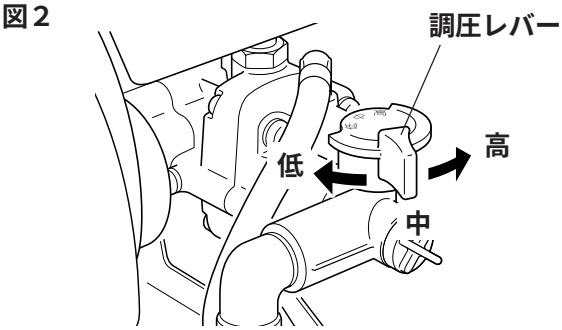
図１



エンジンの操作

- 薬液コック、ノズルコックは噴霧作業を始めるまで必ず閉じておきます。薬液系統に漏れがないか、接続状態を確認してください。
- 暖機運転が終わってからスロットルレバーを上げエンジン回転を上げて、薬液コック、ノズルコックを開いて作業に入ります。（本機は、クラッチ伝達方式です。動力を完全伝達できるエンジン回転で使用してください。）
- ハウス内噴霧の際は本機を屋外に定置してご利用ください。室内でのエンジン運転はしないでください。

図２

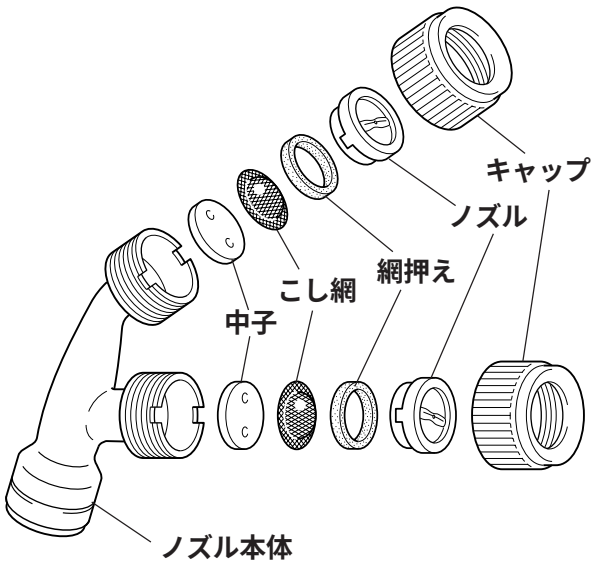


圧力の調整

調圧レバーを回すことにより吐出圧を３段階に切替えることができます。（図２参照）

低圧 － ラウンドアップ、除草剤噴霧
中圧 － 除草剤噴霧
高圧 － 殺菌殺虫剤噴霧

図３



新スワース噴口

ノズル

付属の標準ノズル以外のノズルもご利用いただけますが、吐出圧力と吐出量を標準のものと合わせてください。

標準ノズル

ノズル圧力	ノズル吐出量
1.7 MPa	2.1 L/min

点　検・整　備

整備の目安

⚠ 注　意

・点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（１３ページ図１参照）
・発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	点検 / 交換	17	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	17		●	
燃料パイプ	点検	16		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	17		●	
キャブレタ	点検	18			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	17	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	17	●		
燃料系統	点検 / 修理	16	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	－	●		

重　要

・作業が終了した後は、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の噴霧作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
・燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
・スパークプラグは締付け過ぎないでください。
・除草剤噴霧にご使用のあと一般防除作業にご使用になるときは、薬液タンクほか薬液系統を充分に清水で洗ってから作業してください。
・ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

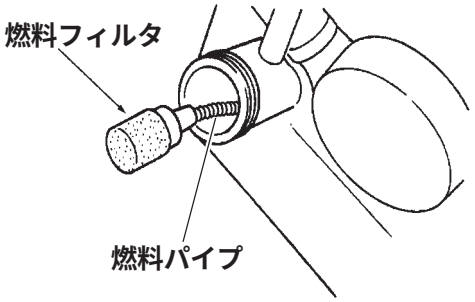
リコイルスタータの点検　（分解禁止）

・ スタータグリップが軽く引けない場合、エンジン内部の故障ですので、分解せずにお買い求めの販売店へご相談ください。

燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

・ ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
・ 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
・ 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

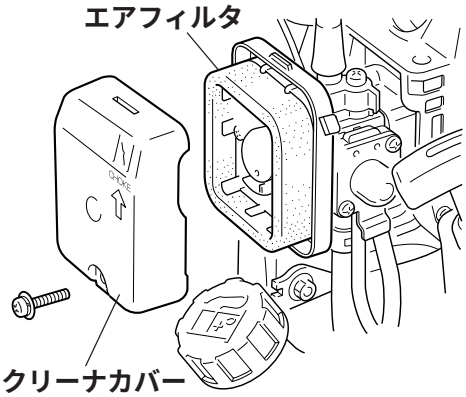
図１



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの給油口から燃料タンク内にある燃料パイプ（ゴムパイプ）を引き上げます。
- 燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。（図１参照）
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

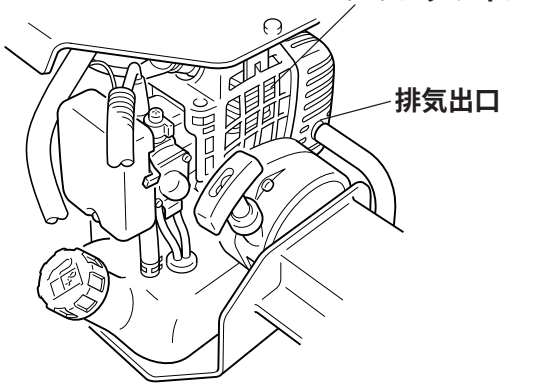
図２



エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバーを外してエアフィルタを取外します。（図２参照）
  エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

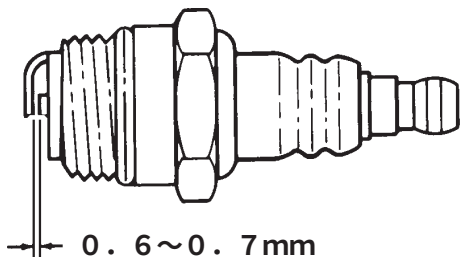
図３



マフラとシリンダフィン

- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし、思わぬ事故につながりますので、増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
  シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

図４



スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ）、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図４参照）
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  (150～170kgf・㎝)です。

図１

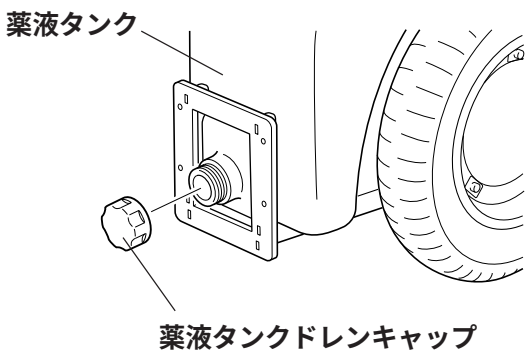


図２

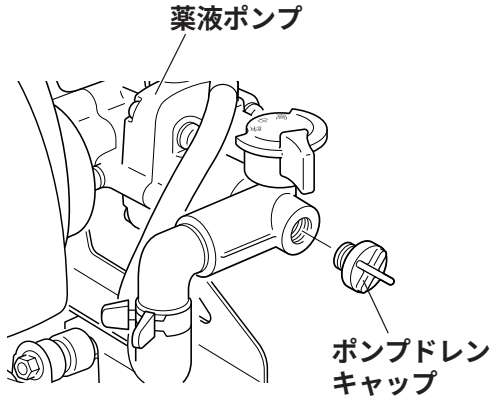


図３

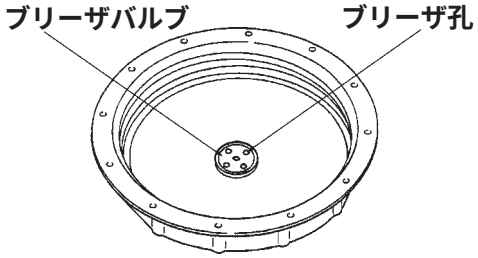
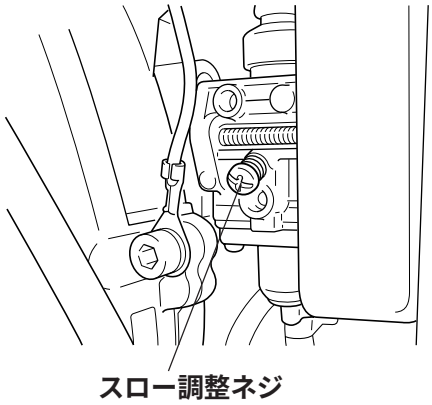


図４



薬液タンクの清掃

- その日の作業が終わったら、清掃してください。
- 薬液タンクのドレンキャップを付けて薬液タンクに水を入れ、エンジンを始動してください。
- ノズルコックを開いて２～３分間ノズルで噴射し、噴霧装置の内部を清掃してください。
- 洗浄後は薬液タンク内の洗浄水を完全に排出します。機体が水平状態では完全に洗浄水が抜けませんのでハンドルを持ち上げて薬液タンクドレンが下になるように傾けてください。
- 使用後は薬液タンクのドレンとポンプドレンキャップを外し、機械に付いた薬液も洗い流してください。

薬液タンクブリーザ

- ブリーザバルブとブリーザ孔は定期的に清掃してください。
- ブリーザバルブのシールの不良は、薬液の漏れを引起こします。
  ブリーザ孔の詰まりは、吐出圧力の低下、あるいは薬液タンクの破損を引起こす原因となります。

キャブレタ

- 必要でない限り、キャブレタを調節しないでください。
- アイドリング（低速運転）の調整が必要なとき、キャブレタのスロー調整ネジを回してください。（図４参照）
  反時計方向に回すと、エンジン回転は低下します。
- 調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。
- エンジンを長い間使わないときは、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- **燃料タンクに燃料が入っていること。**

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃／交換 ●清掃 ●販売店へ
	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
	→	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
	プラグコードの先端で発火する →	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
	スパークプラグは発火する →	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン（炭素）の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない			●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する	持続しない、または加速不充分		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●シリンダフィンの詰まり ●排気口／マフラの詰まり	●清掃／交換 ●清掃／交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
	噴霧の異常ムラ		●吸水弁の詰まりか損傷 ●ピストンパッキンの摩耗	●分解／点検／交換 ●交換
	細かい霧にならない		●調圧弁／弁シートの摩耗 ●Uパッキンの摩耗 ●薬液系統（水シールやパッキン類）の摩耗 ●ホースに穴や裂け目がある ●本機に適当でないノズルを使用している（吐出量の大きいノズル）	●交換 ●交換 ●交換 ●交換 ●交換
	薬液が全く出ない		●ゴミ・異物による薬液系統の完全な詰まり ●薬液タンクに液がない ●薬液ポンプの破損	●清掃 ●補給 ●修理

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（30 日間以上）

機械を長期間(30日以上)にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１. 薬液タンクとホースを清水で清掃してください。
薬液タンク内の洗浄水はドレンキャップを外して排出してください。
ポンプドレンキャップを外し、薬液ポンプ内の洗浄水も完全に排出してください。

２. 本書に定められた定期的な注油と点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。

Ａ. 必要ならば掃除をし、修理をしてください。
Ｂ. サビ止めに、金属部分には薄く油を塗ってください。
Ｃ. ホースとパイプを取外してください。

３. 燃料タンクを完全にカラにしてください。
キャブレタ内の燃料も排出してください。

４. スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。

Ａ. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
Ｂ. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。

５. スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）

６. 機械を乾かし、子供の手の届かないホコリの少ない場所に保管してください。

仕　　様

項　　目	単 位	PHS10
質量（ホース類、燃料除く）	kg	２４
容量 燃料タンク 薬液タンク	 L L	 ０．８ ２８．５
外形寸法（ホース類除く） 長さ×幅×高さ	 mm mm	 １，０５０×３５５×５３０（ハンドル除く） １，８５０×３５５×９５０（ハンドル付最大）
エンジン 形式 排気量 最大エンジン回転数（締切時） アイドリング回転数 クラッチ作動開始エンジン回転数 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式 動力伝達方式	 mL r/min r/min r/min	 空冷２サイクル単シリンダ ２１．２ 7,000～7,400 2,700～3,300 3,300～3,900 ＴＫ循環式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ iスタート 自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ＦＣ・ＦＤ　　;[５０：１] ＦＡ・ＦＢ　　;[２５：１]
薬液ポンプ 形式 散布量（標準ノズル） 圧力（締切）　[低] [中] [高] ノズル	 L/min MPa(kgf/cm²) MPa(kgf/cm²) MPa(kgf/cm²)	 ピストン式 ２．１ ０．６　（６） １．１（１１） １．７（１７） 新スワース噴口（２頭口）
ノズルホース 内径 長さ	 mm m	 ７．５ １．２
付属品 ホース・ノズル関係 ソケットレンチ（１０×１９） 防除マスク 取扱説明書 延長軸 間筒 バンド	 個数 個数 個数 個数 個数 個数 個数	 一式 １ １ １ １ １ ２

＊　この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-004　54 4
X750 418-010 4　　0808n 0788 ES

© 2002 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。